［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	4772600039
法人名	社会福祉法人いなほ会
事業所名	グループホーム いなほ
所在地	〒901－2404 沖縄県中城村字添石363 （電 話）098－895－3003

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4－373－1
訪問調査日	平成21年3月18日（水）

【情報提供票より】（平成21年 1月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 15 年 7 月 3 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 9 人，非常勤 0 人，常勤換算 9 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000 円		その他の経費（月額）	光熱費 6,000 円
敷 金	有（ 円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（ 1月 15 日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性 9 名
要介護1	0 名		要介護2	0 名
要介護3	6 名		要介護4	3 名
要介護5	0 名		要支援2	0 名
年齢 平均	87.6 歳	最低	75 歳	最高 97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ハートライフ病院 こうち歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、中城湾が一望できる高台に位置し、近隣に住宅は少ないものの緑豊かな自然に恵まれた環境にある。ホームは、法人母体施設に併設され連携が緊密に取られており、緊急時の対応、特に職員へのきめ細かな研修体系が整備されている。管理者は、勤務調整をしながら職員の研修への参加を支援、ホーム全体で認知症ケアに対する質向上への取り組みが行われている。又、地域との付き合いでは、地区の中学生ボランティアを受け入れており、利用者が学校行事へ積極的に参加する等、相互交流が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価の改善項目として挙がった①地域との付き合い②市町村との連携③運営に関する家族の意見の反映④重度化や終末ケア⑤入浴を楽しむ事の支援等について、改善計画シートを作成し、既に改善したり改善に向けた取り組みが行われている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者は自己評価を通してケアの振り返りを職員と一緒に行い、全ての自己評価を検討しながら作り上げている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は家族の代表、利用者を含めて2ヶ月毎に開催されている。事業所は評価の結果、取り組み状況を報告している。又、委員からの提案、意見を受け入れ「認知症研修会」を実施し、感想、報告をまとめて行政や利用者家族へ報告している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

管理者は定期受診時や面会時、電話等を通して家族の意見を出せるよう雰囲気作りをしている。又、年1回の家族会も開催され、運営推進会議には家族も参加し意見を出せる仕組みが出来ている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

近隣の保育園、中学校の行事へ積極的に参加している。地区の中学校ボランティアの定期的な訪問により相互交流が図られ、利用者の表情が活き活きとしてきた。更には、村のボランティア団体との連携により屋外活動への取り組みも行われている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、利用者の立場、という視点に立ち管理者、職員が共に作り上げてきた。具体的ケアの方針で地域との連携を図り支えあいの関係を築く等、地域交流の受け入れだけでなく地域に向けた取り組みを実施しているが、理念の文面には地域との連携を意図した内容は見られない。	○	地域との交流を大切にしながら、ホーム全体で再確認の上で「地域密着」という具体的な文章を加えた理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に職員全員で唱和している。管理者と職員は、その人らしい人生の継続を支援するケアを日々実践している。（過去の生活歴から不穏時の対応を推察する等）		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回全員が地域のボランティアの協力の下、近隣の社会福祉協議会や公園へ出かけている。又、保育園や老人会等の行事へ参加し交流を深めている。月2回中学生ボランティアを受け入れ、更に体調面を考慮しながら中学校の文化祭や地域のスポーツ大会へも参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、外部評価の結果を職員に報告、改善計画シートを作成し職員と共に改善に取り組んでいる。例えば、地域へ出向き馴染みの場所、人達と触れ合う事で気分転換が図れるよう地域の行事に積極的に参加している。前回の結果も玄関に置き、来訪される面会者や家族等にも確認できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族を含め会議は2ヵ月毎に開催し、毎月の活動内容や行事の報告を行っている。委員からの意見や提案を受け入れ「認知症研修会」を実施し、感想・報告をまとめ行政や利用者家族へ郵送している。又、管理者は他の利用者家族へも声かけし、参加を促している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回の外部評価結果を行政窓口に置いている。行事案内文書を発送しているが、行政への直接的な働きかけや啓蒙活動は行っていない。又、運営推進会議へ村の福祉担当職員の参加が無く、情報交換、意見交換が行われていない。	○	今後は、市町村と連携しながらホームでの介護勉強会や地域で認知症勉強会を開催する等、地域に密着しながらホームの啓蒙活動や広報活動を通して更なるサービスの向上に期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便りを発行し、毎月の金銭管理の収支報告を文書で行い、家族の面会時に利用者の日常の状況を報告している。又、面会の少ない家族へも電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にふれあい箱の設置、年1回の家族会開催、運営推進会議への家族の参加により意見が出せる機会を設定している。家族へのアンケート（H20年）1回を実施したが返信は1通のみであった。回答については、ホーム便りと玄関に置き、報告している。	○	家族同士での意見や要望が言えるような雰囲気作りをし、家族会でのまとめの部分でホームが参加する等家族の意見を汲み取れるよう工夫し、運営に反映させていく仕組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動、退職者については家族の面会時や行事などで報告している。新しい職員へ馴染むのに時間がかかる場合は、馴染みの職員によるケアを心がけている。更に新しい職員をきちんと紹介し、利用者からホームの事を教えてもらう様工夫している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体において職員の研修体系が整備されている。管理者は勤務調整をして研修への参加を支援している。研修へ参加した職員は、月1回のホーム全体会議で報告し、職員間でいつでも見れるよう事務室に掲示されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、研修会では、情報交換や研究発表等を通し利用者のケア質向上へと繋げている。又、休日の職員と同業者職員が相互に交換し、職場体験を実施している。参加した職員は、体験報告をホーム全体会議で行う等相互のサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、病院や法人内から当ホームへの利用となっている。1ヶ月ほど落ち着くまで本人のペースに合わせ、家族の面会時間を増やす、電話をかけるなど協力をお願いしている。又、病院受診は必ず家族が対応するよう配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に子育てや家庭生活について、職員は利用者から助言をもらう事が多い。台所では、米のとぎ方や野菜の切り方を教えてもらっている。職員が感謝の言葉を伝えることで利用者の表情が活き活きしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅への帰宅願望が強い利用者に対して、ホーム内の内線を使い、職員が夫や家族になりきり本人を安心させている。又、職業柄、遅い夕食時間を習慣としていた利用者へは生活習慣を尊重し支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	管理者は計画作成業務を兼務している。職員業務日誌や居室担当者からの情報を事務室内に掲示し、職員からの意見を確認している。又、病院受診時やサービス担当者会議で家族からの情報を得て、利用者の意向、家族や職員の意見を反映させ、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回個別ケース会議を実施し、利用者の状態変化に即した介護計画を変更している。脳梗塞で入院中の利用者に、家族からの意向を踏まえ早期退院を実施し、退院後の状況変化による介護計画の見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診拒否の利用者に対し、訪問診療へ切り替え、本人、家族の要望に対応している。又、受診は家族が付き添うが、都合のつかない場合や緊急時にはホームで送迎、付き添うなど支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居前から通院していたかかり付け医であり、受診時は家族が付き添い、事業所はかかり付け医への情報提供書を持たせて受診支援を行っている。又、利用者の状態変化に応じて訪問診療へ変更する等支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を確認しているが、入所施設希望が殆どであり、方針は未だ出来ていない。ホームでは、利用者の身体状況に合わせた対応や具体的な話し合い、学習会を重ねている。管理者は、医療連携を整備してから進めるよう前向きに考えている。	○	医療面（重度化、看取り）での支援方法や家族、職員の心構え対応について共有化を図り、重度化した場合の対応及び看取りケアの方針を作りあげる準備を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の書類は事務室内で管理されている。共有空間における利用者への声かけも、誇りを傷つけない様配慮している。（排泄を失敗した場合もさり気なく声かけし、居室や浴室へ移動し着替えを行い、まめにトイレ誘導している）		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の決まりごとは無く、家事の好きな利用者は好みの場所で、野菜の振り分けに集中し穏やかに時間を過ごしている。又、廊下には木製椅子が置かれ、ひとりで過ごす場所も確保されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員を中心に仕込み、にんじんの皮むき、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、トレイや食器の準備に利用者の力が活かされている。職員と利用者が同じテーブルで和気あいあいと談笑しながら食事を楽しんでいる様子は、家庭的な温かさが感じられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を実施しており、浴槽も使用している。足のむくみのある利用者へは、体を温めながら足浴やマッサージを行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞を読む事が習慣化している利用者は、居室や居間で新聞を読んで過ごしている。園芸の好きな利用者は、天気や体調の良い時は、ホーム内の草花の手入れをしている。又、歌の好きな利用者からは、職員が歌を習い一緒に歌っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地的（傾斜地にあり道路は車の往来があり、店や民家は2km位離れている）に対応が厳しい。面会時に家族とホームの周りを散歩したり、月１回は郊外活動を実施している。ドライブの際、利用者の生活していた地域へ出かけている。	○	ホーム玄関の長椅子の活用や、敷地内にある法人組織活用等をうまく利用しながら利用者個々の気分転換、ストレス解消、五感刺激の機会など日常的に外出できる支援の工夫に期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵をかける事は無く自由に出入りが出来る状況にある。夜間は、（21時～6時）安全対策上施錠している。玄関にはセンサーが設置され、訪問客や利用者の出入りに迅速に対応出来る様活用されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策マニュアルも作成され、法人全体で防災訓練を年2回実施し、ホームが火元、夜間想定の訓練も行っている。又、近隣のタクシー会社の協力で非常召集対応も可能である。消防署への直通火災通知装置やスプリンクラー、煙探知機も設置されている。		今後も災害は何時起こるかわからない、という危機感を持ち日頃から災害に備えた万全の対策を講じるよう期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取、体重測定が詳細に記録され栄養バランスに配慮した支援が行われている。特に嚥下難を伴う利用者への支援も十分行われている。献立に関しては、法人内の管理栄養士と連携している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関脇には花壇やベンチも設置され、談笑の場として過ごせる様工夫されている。高台の特性を活かし、共有スペースの窓を開放的に作り、田園風景や海が一望でき季節感を感じる事が出来る。居間はゆったりとして、壁には季節ごとに利用者が作成した作品が掲示されている。又、ソファーには利用者同士が座りおしゃべりを楽しみ、心地よい時間が流れる様工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドア上部に花などのステンドグラスが埋め込まれ、プライバシーに配慮しながら居室を見守っている。居室内は、利用者の好みの写真や花等が持ち込まれ居心地の好さに配慮されている。ベッド、タンス、椅子はホームで準備しているが、配置については本人に合わせている。		